

# 日本オリエンテーリング協会長期事業方針（案）

## 10～20年後にありたい姿

2023年4月

公益社団法人日本オリエンテーリング協会

はじめに

日本におけるオリエンテーリングは、1966年に導入されて以降50年余りが経過した。公益社団法人日本オリエンテーリング協会（JOA）は、その統括団体として、オリエンテーリングの普及及び振興を図り、もってアウトドアスポーツの健全な発展に貢献するとともに、国民の心身の健全な発達に寄与することを目的としている。そのため従来から、普及と社会的認知の向上、選手の育成、競技力と技術の向上、国際協力、そして社会貢献に取り組んできた。さらにこの数年間は、「日本と世界をオリエンテーリングでつなぎます」、「フェアプレーを応援します」、「社会に役立つスキルを広めます」、「オリエンテーリングを楽しむ仲間を増やします」という標語のもとに活動を継続してきた。今後はこれに加えて、未来のスポーツ文化の視点からオリエンテーリングの本質を見つめ、オリエンテーリングによって多くの人々が喜びや生きがいを感じ、人間力の向上が得られることを目指したい。この理念を実践するための、今後10年～20年の長期にわたって目指すべき行動目標として、以下の5項目の柱を設定する。

### JOA 長期事業方針の柱

- 1.オリエンテーリングの価値を発信し、社会に貢献する
- 2.アスリートを育成・支援し、生涯スポーツを推進する
- 3.国際交流・協力を推進する
- 4.組織力と基盤を強化し持続可能な組織とする
- 5.構成員・支援者を支える

具体的な内容においては、この5つの柱は相互に関連し、また重複する部分もある。以下に行動目標の詳細を述べる。

#### 1. オリエンテーリングの価値を発信し、社会に貢献する

オリエンテーリングの意義・価値には 以下のようなものが考えられる。

- 1) 誰もがができる、生涯スポーツとしての価値
- 2) 教育的価値
- 3) 地元・地域に与える恩恵
- 4) 環境負荷が少ないこと
- 5) さまざまな技術・ノウハウ

- 1) オリエンテーリングを楽しむ人々の健康に貢献し、かかわる人々が幸福感を感じられるようにしたい。そこにはスポーツ実践による肉体的な健康のみならず、楽しく充実感がある場が提供される、社会と関わる場、自己実現の場が提供されるという、精神的、社会的な健康も含まれる。参加のみならず、支援するスポーツ、見るスポーツといった多様な関わり方もできるようにしたい。
- 2) オリエンテーリングで育まれる能力には、身体的能力、知的能力以外にも、さまざまなツールの活用能力、自律的に行動する能力、多様な社会における人間関係形成能力、といった生きる力（キー・コンピテンシー）が挙げられる。このような価値が認識されることにより、初等教育から高等教育、社会人教育のすべての場において、オリエンテーリングが教育科目として利用されているようにしたい。
- 3) オリエンテーリングには、それを行う場が必要であり、持続可能であるためにはその地域の理解と協力が必須である。そのためにはオリエンテーリング活動が、スポーツツーリズムのように地域の活性化などのメリットをもたらす仕組みを作りたい。
- 4) オリエンテーリングは自然環境を利用したアウトドアスポーツであり、環境への負荷が少ない。SDG'S への対応といった面からもこの点が広く知られているようにしたい。
- 5) オリエンテーリングには、ナビゲーション能力、地図の作成、競技会の運営などの面において、さまざまな技術・ノウハウの蓄積がある。これらを活かし、社会に役立つ貢献をしてゆきたい。

上記のような価値を有するオリエンテーリングというスポーツが、社会に広く正しく知られていることを目指して、さまざまな媒体を使ってのアピールを行い、認知度を向上したい。他のスポーツ界からも一目置かれているようなオリエンテーリングのブランド力を構築し、他のスポーツすなわち、アウトドア、陸上、スキー、自転車、パラスポーツ等々との協働・交流が行われているようにしたい。そこから新たな競技種目が生まれることがあるかもしれない。その結果として、マスメディアからも注目され、オリンピック種目に加えられるという状況、日本においては JOC の承認団体から準加盟団体への昇格などを目指したい。

## 2. アスリートを育成・支援し、生涯スポーツを推進する

世界の舞台で多くの選手が活躍し、高い成績を上げ、切磋琢磨していること、そして選手は多くの人のあこがれであり、尊敬される存在であることが期待される。世界に通用するアスリート育成のためには、ジュニア期からの選手育成、潜在的能力のある選手の発掘などの戦略的育成が必要であり、これらが行えるシステム、環境を構築したい。他のスポーツ種目との交流なども有効かと思われる。また、選手指導のためのコーチングのノウハウが確立していると共に、指導者・コーチも全国各地で人材が充足し、その社会的地位が確立されていることを目指したい。あこがれである選手はその人格においても尊敬される必要があり、選手・コーチのインテグリティ・コンプライアンス教育、アンチドーピング教育も継続的に行

ってゆく。

一方で、生涯スポーツとして、高齢者も活躍しているような全世代にわたる活動が期待される。どんな年代の初心者も気軽に参加でき、一旦離れた人たちもまた気軽に戻ってこられるような環境を作りたい。さらには、パラスポーツにも参画していることを目指したい。オリエンテーリングは選手間の交流も多く、参加するのみならず運営にかかわるなど「支援するスポーツ」として多様なかかわり方ができるので、コミュニティの醸成に役立つようにしたい。そのために、競技会とそれにかかわるシステムの充実をしてゆきたい。設備やルールが整備され、全国各地で質の高い、誰でもが楽しめる大会が安定して開催され、その運営のためにも多くの人が活躍していることを期待したい。

### 3. 国際交流・協力を推進する

世界選手権をはじめとする多くの国際大会に、多くの代表選手が参加して、国際大会を盛り上げているようにしたい。一方で、毎年様々な形での国際大会を日本で開催することにより、世界からの期待に応えたい。特にアジア地区においては、その先駆者、リーダーとなって周辺諸国をサポートしていることが期待されている。また国際協力の面では、IOF等の国際組織の運営において、役員を派遣し協力するなどの役割を担っていることが望ましい。日本で開発された技術などでの国際協力、情報発信を行ってゆきたい。

### 4. 組織力と基盤を強化し持続可能な組織とする

組織基盤である日本全国の会員組織が適切に維持運営されている状況を作るために、人材育成と財政基盤を確立する必要がある。財源を確保するための施策がなされており、必要などころにお金がかげられる余裕を持てる状況にしたい。また、本部事務局業務に必要な人材、資材が充足しており、管理がしっかり出来ている状態にしたい。

持続可能な組織であるために、協会としての将来を担う人材が豊富で、適材適所で役員が選任・配置されており、次世代の養成システムがあるようにしたい。上から目線の育成ではなく、人材提供のコミュニティから自然と組織に関わる人が出てくるような集団形成、自律的成長を目指したい。そのために、支援する喜びを創出し、ボランティアとエキスパートの協働体制を構築したい。また、組織としてのコンプライアンスが遵守されているとともに、リスクマネジメントが出来ている状況にしたい。

### 5. 構成員・支援者を支える

日本全国の会員組織が適切に維持運営されているとともに、そのもとで地域クラブが生き生きと活動している状態にしたい。競技者登録者を増やし、10,000人超を目指すとともに、その人たちが満足感を得られるような施策を構築したい。競技者が安心して参加できるような体制、運営者が安心してイベントを企画実行できるような体制を構築したい。

関連する組織、すなわち日本学連、デフオリエンテーリング協会などの構成員との協力、

JOC、JSPO、スポーツ庁、UNIVAS,等の上位団体への協力、他の関連するスポーツ団体などの並列する組織との交流などが行われている状態にしたい。また、協働活動者といえる、学校・教育関係者、地方行政、スポーツ施設などと良好な協力関係を構築したい。さらに、利害関係者との Win-Win の関係を構築したい。収益事業として関連事業者の生活が成り立ち、スポンサー、サポーターに対して見返りがあるような状況にするとともに、ボランティアで活動をしている人たちが生きがいを持って活動している状況を作りたい。

以上、現時点で考えている JOA の長期事業方針について述べた。これ以外についても様々な目標が想定され、今後新たな展開が生まれてくるかもしれない。将来構想委員会などを設置することにより、オリエンテーリングの意義・価値の探求と今後の展開について、継続的な議論を続けたい。